

2015.11.12 図書館総合展フォーラム「人は図書館をどのように
に思っているのか」を知るために

調査結果の 更なる理解に向けて

佐藤翔 (min2fly@slis.doshisha.ac.jp)

国立国会図書館関西館図書館協力課非常勤調査員

同志社大学免許資格課程センター

本調査結果の

優れた点

本調査の優れた点

- 豊富なデータの存在
- 集計前の生データの公開
 - 利用しやすい整形済み形式
 - 他データと結ぶ鍵が存在：居住地

研究の沃野
を開くもの

实践例

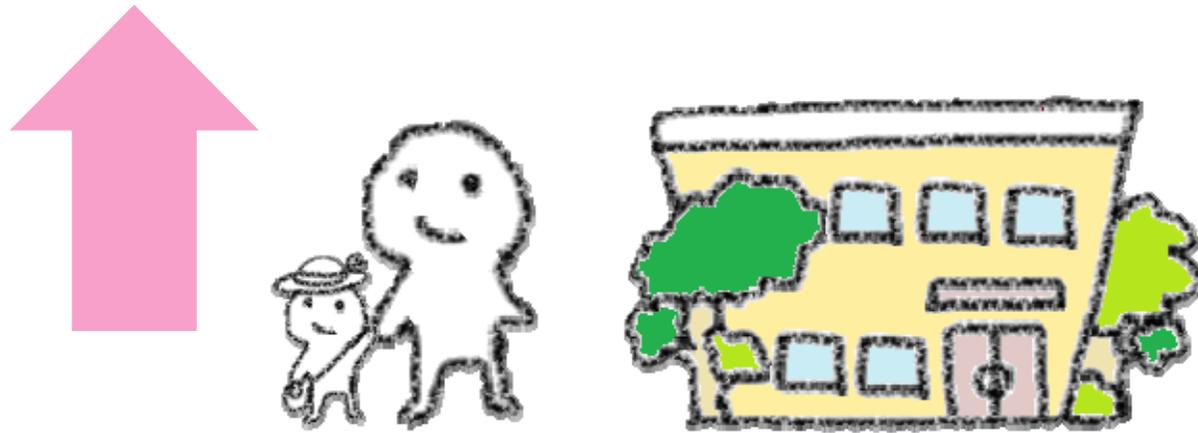
2015.06.27 情報メディア学会 第14回研究大会

子の有無と 図書館利用・ 情報行動の関係

佐藤翔 (min2fly@slis.doshisha.ac.jp)

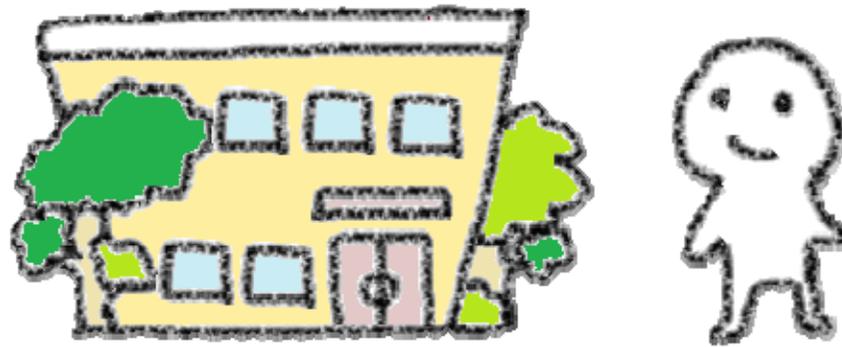
同志社大学免許資格課程センター

ライフステージと図書館



- 子どもは親に連れられ、図書館を活発に利用

ライフステージと図書館



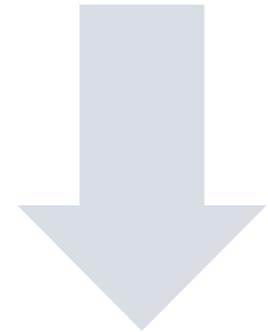
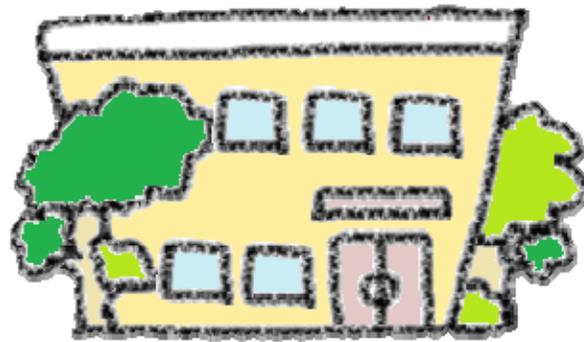
- 成長に伴って図書館利用は減少

ライフステージと図書館



- 子どもができると今度は親として、
図書館をまた利用するように！

ライフステージと図書館



- 子どもが手を離れると使わなくなる

親の図書館

利用は

定着しない

WHY?

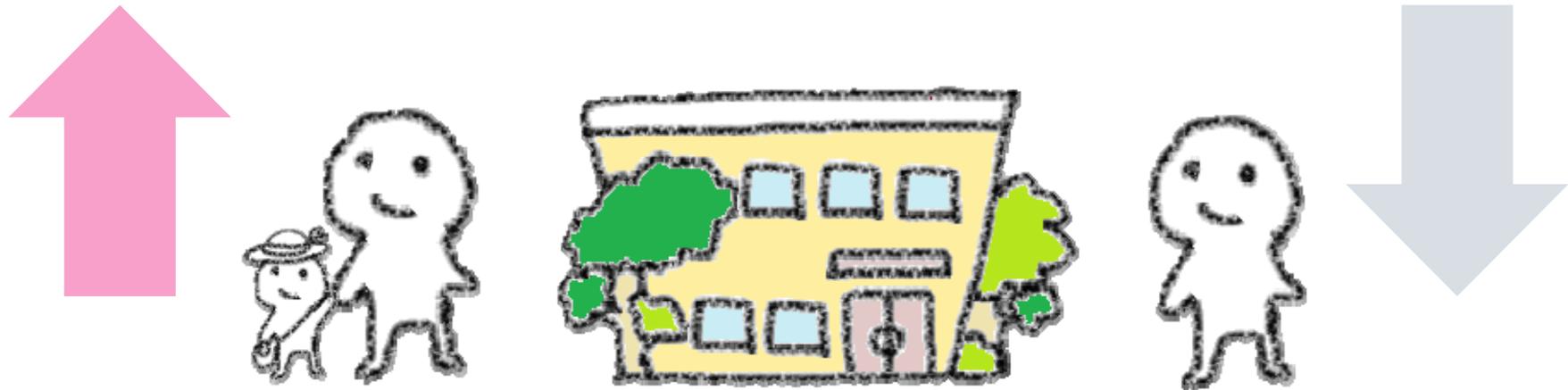
← 今回のデータ

から検証

分析対象・観点

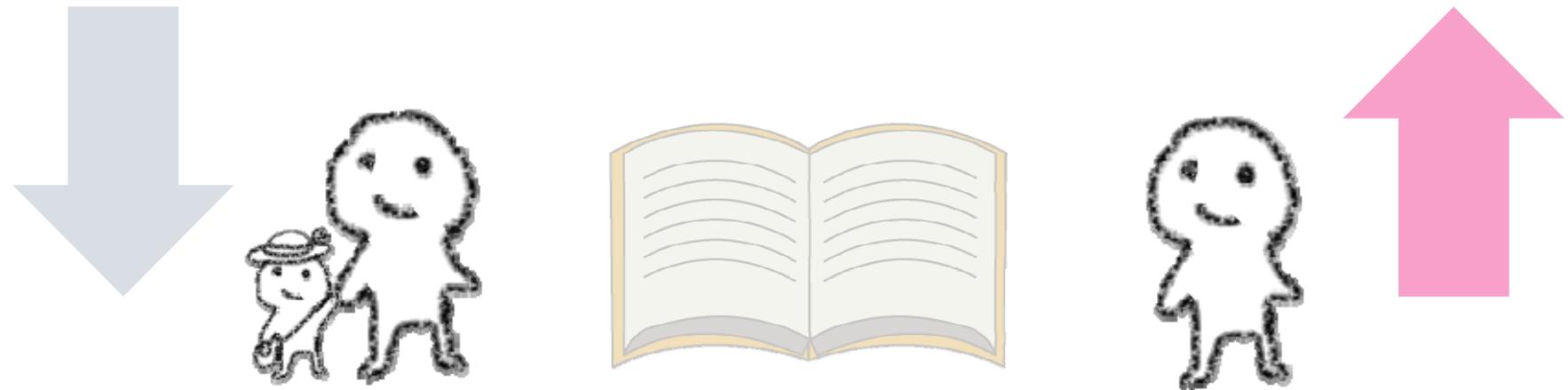
- 30～40代の回答者
- 同居する子の有無
- 図書館利用行動
- メディア利用行動

子の有無と図書館利用



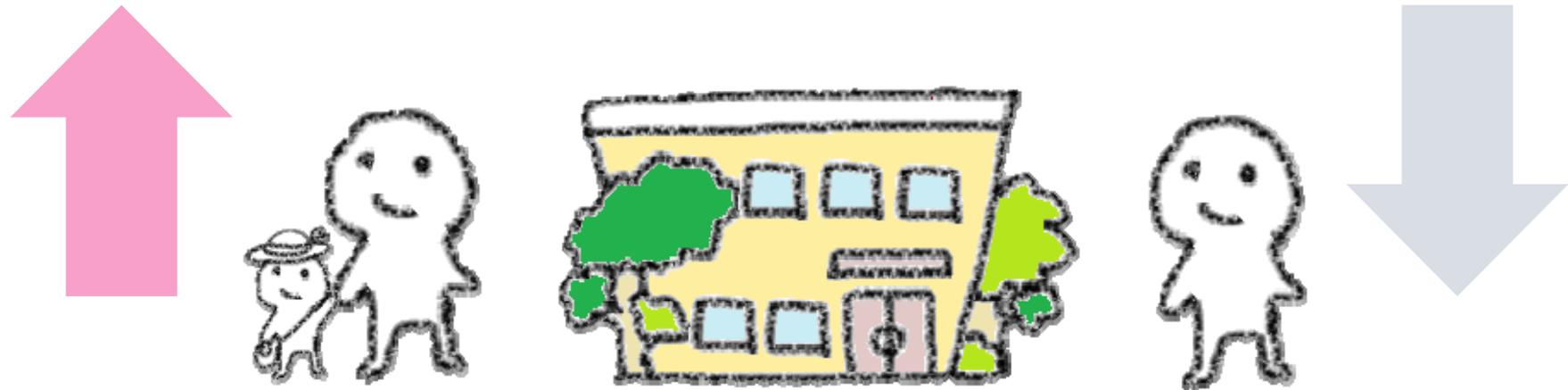
- 子を持つ親は有意に図書館を利用

子の有無とメディア利用



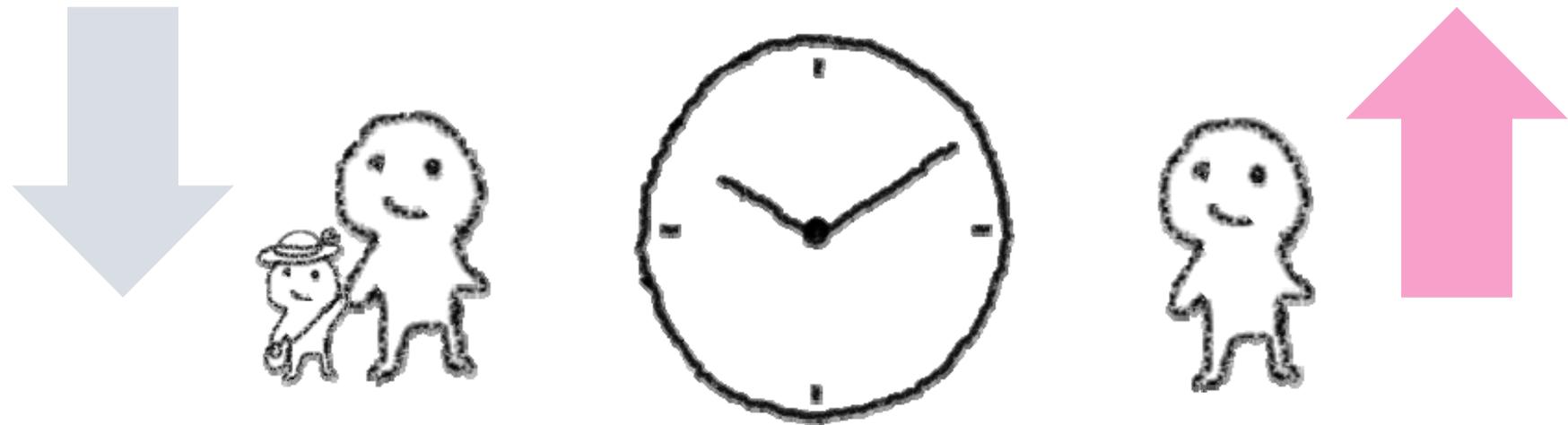
- 子を持つ親は有意に本を読まない

子の有無と図書館利用



- 親の図書館利用 = 子どもの付き添い

親の他メディア利用



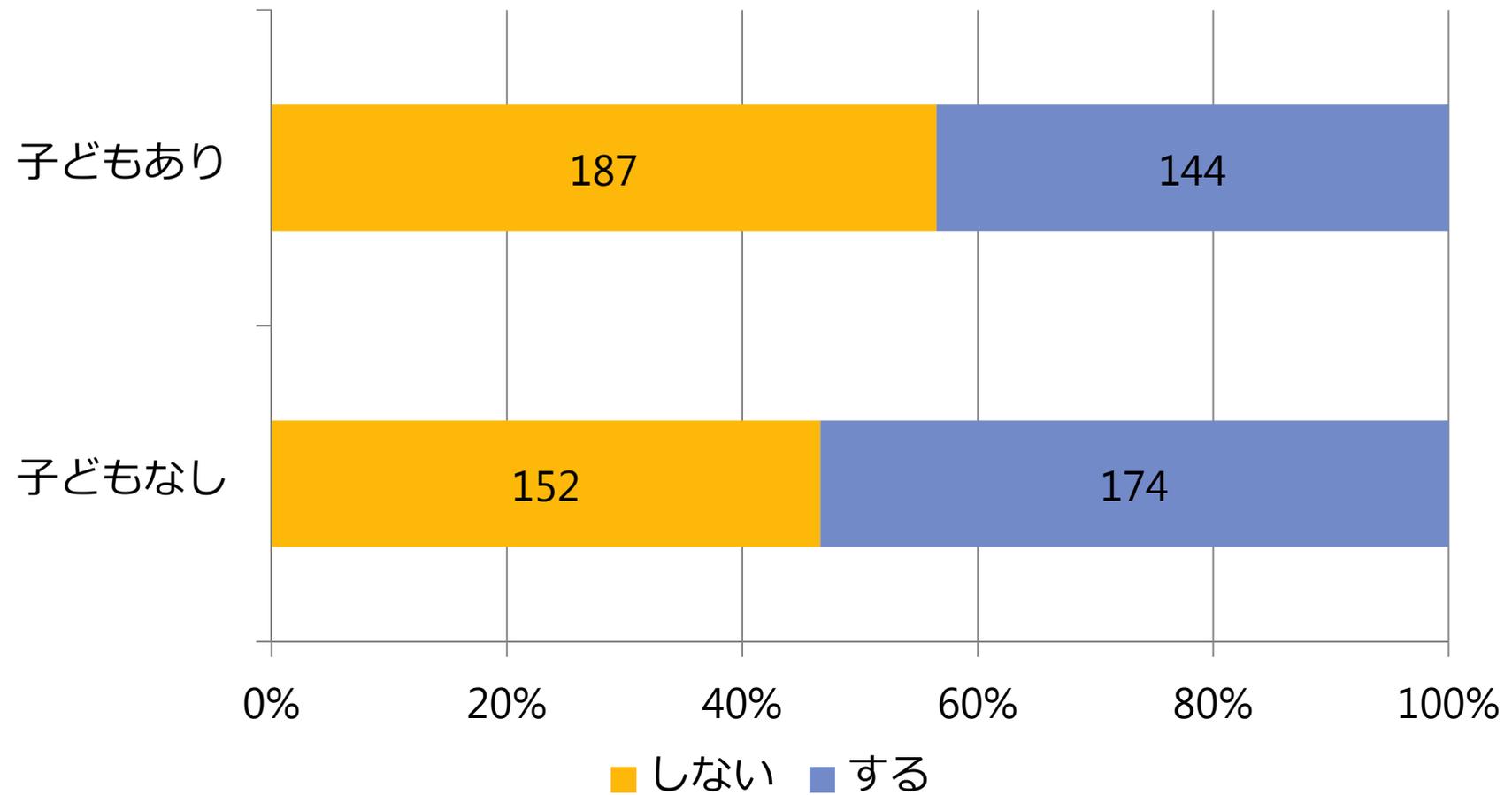
- 没入型の娯楽メディアの利用減少
- 親は一人の自由時間を持たない

ここからは
新規の分析

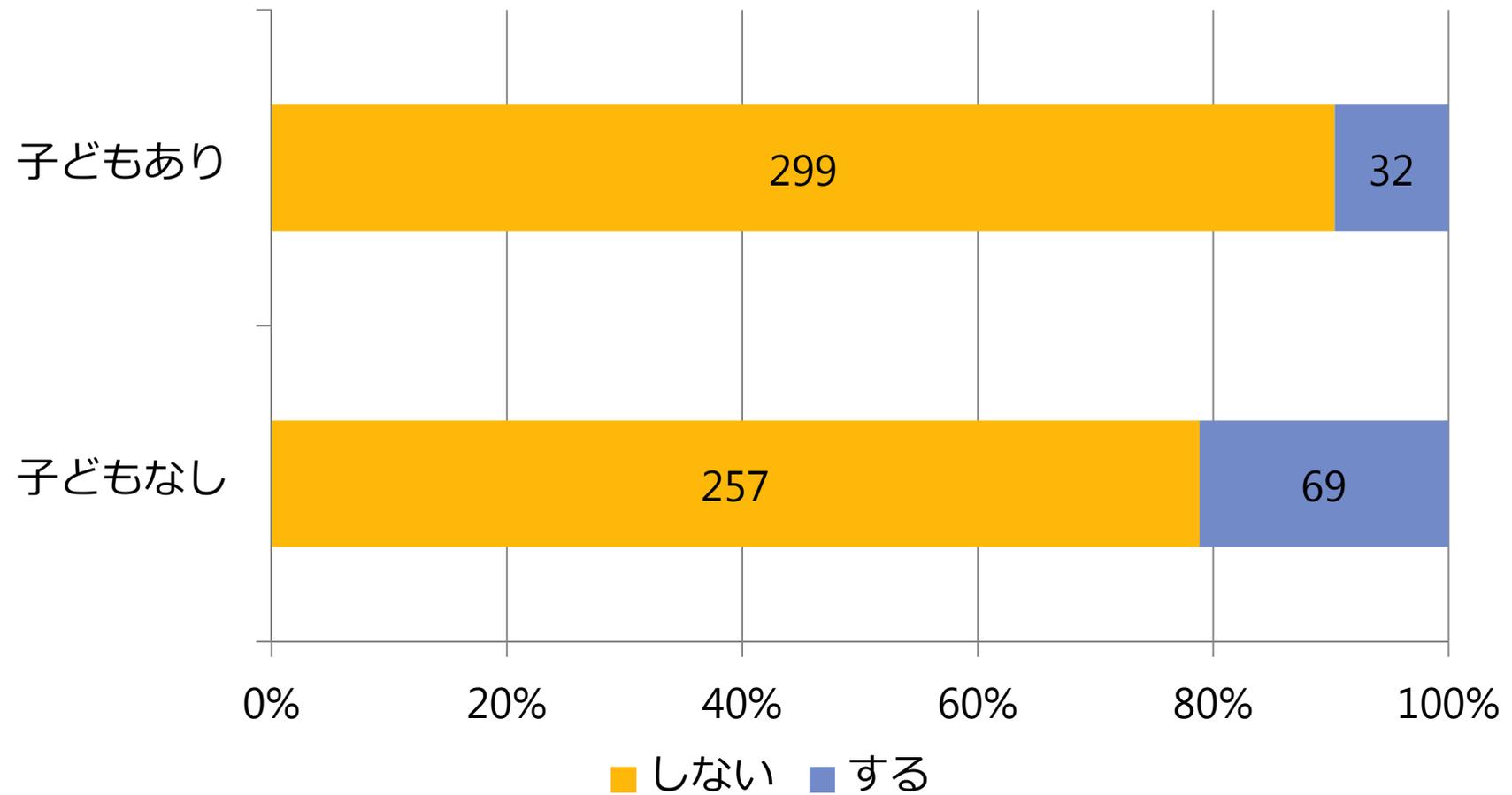
子の有無と

利用目的

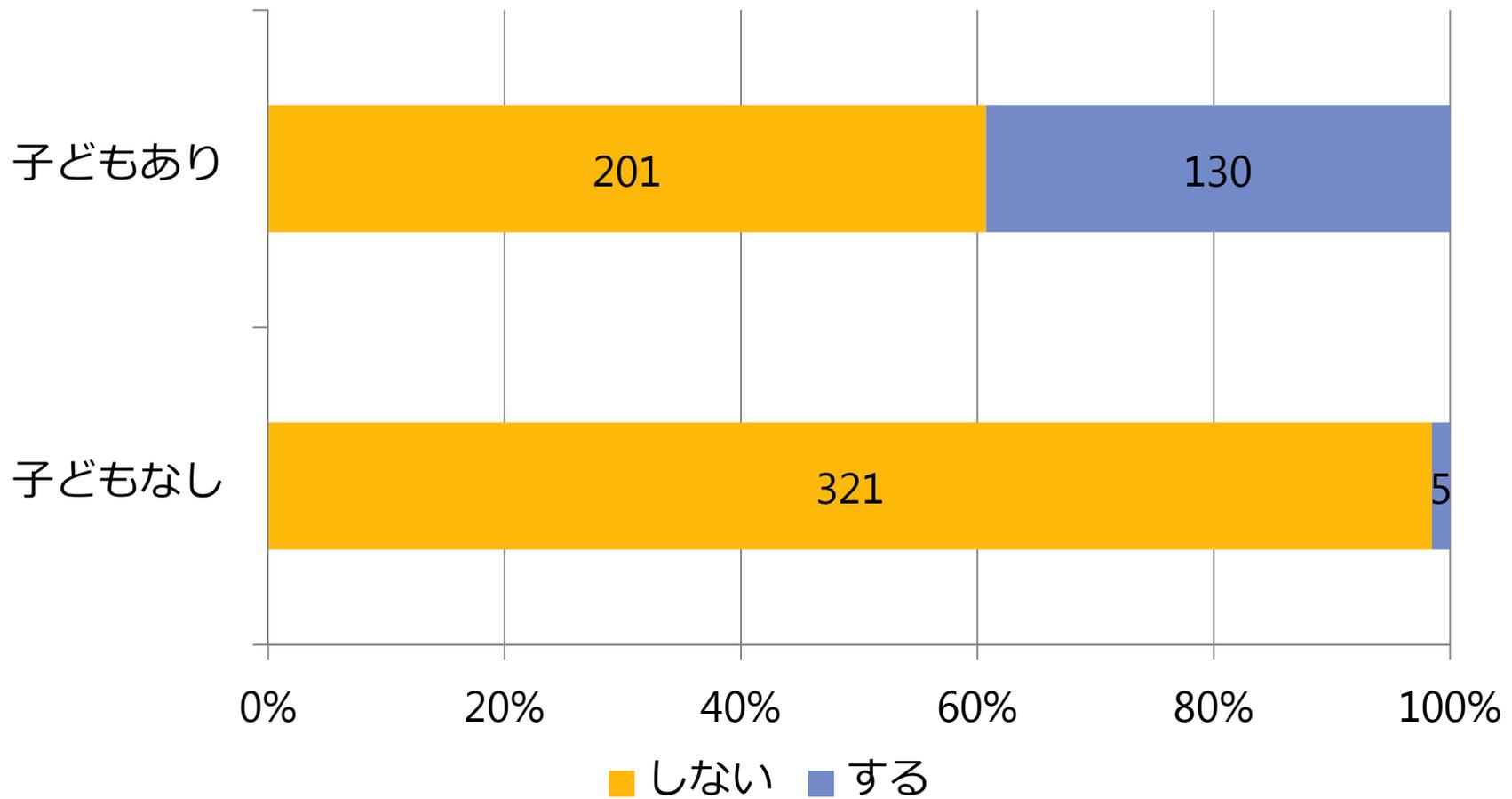
館内での資料閲覧



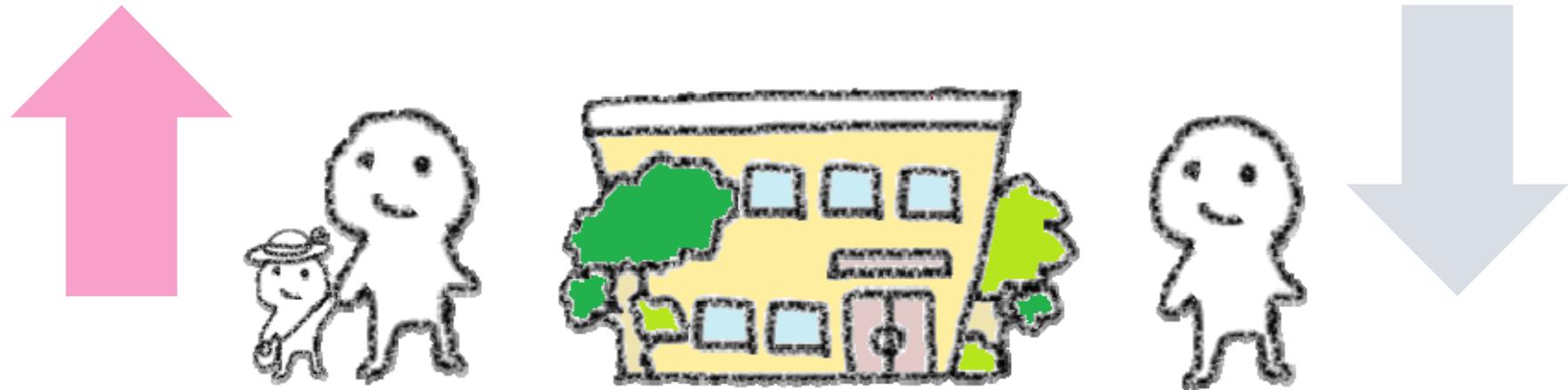
館内での仕事／勉強



子どものつきそい

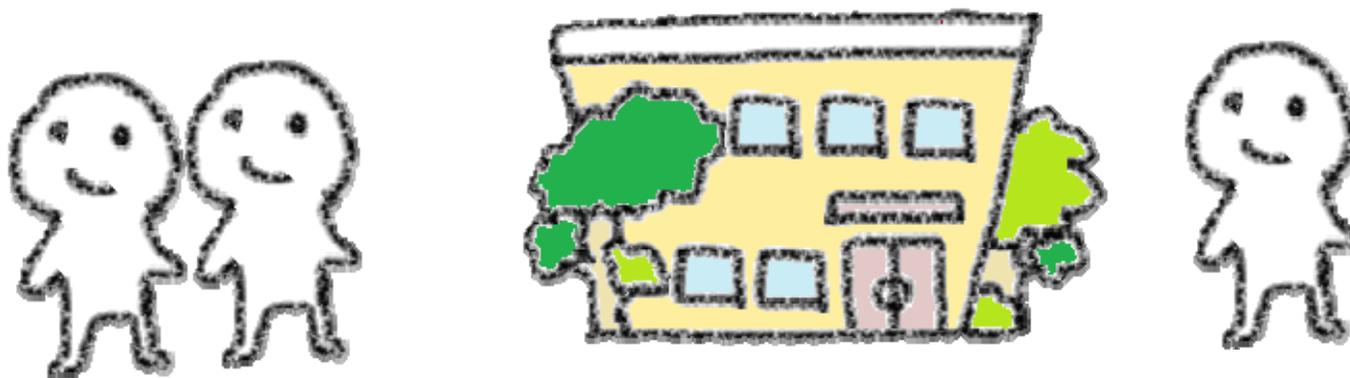


子の有無と図書館利用



- “親になって増えた”図書館利用
= 子どもの付き添い

その証拠に・・・？



- **50代**になると子の有無と図書館利用に有意な関係はなくなる

何か
問題か？

図書館への
意識も変化

「人は図書館を
どのよう^にに思っ
ているか？」

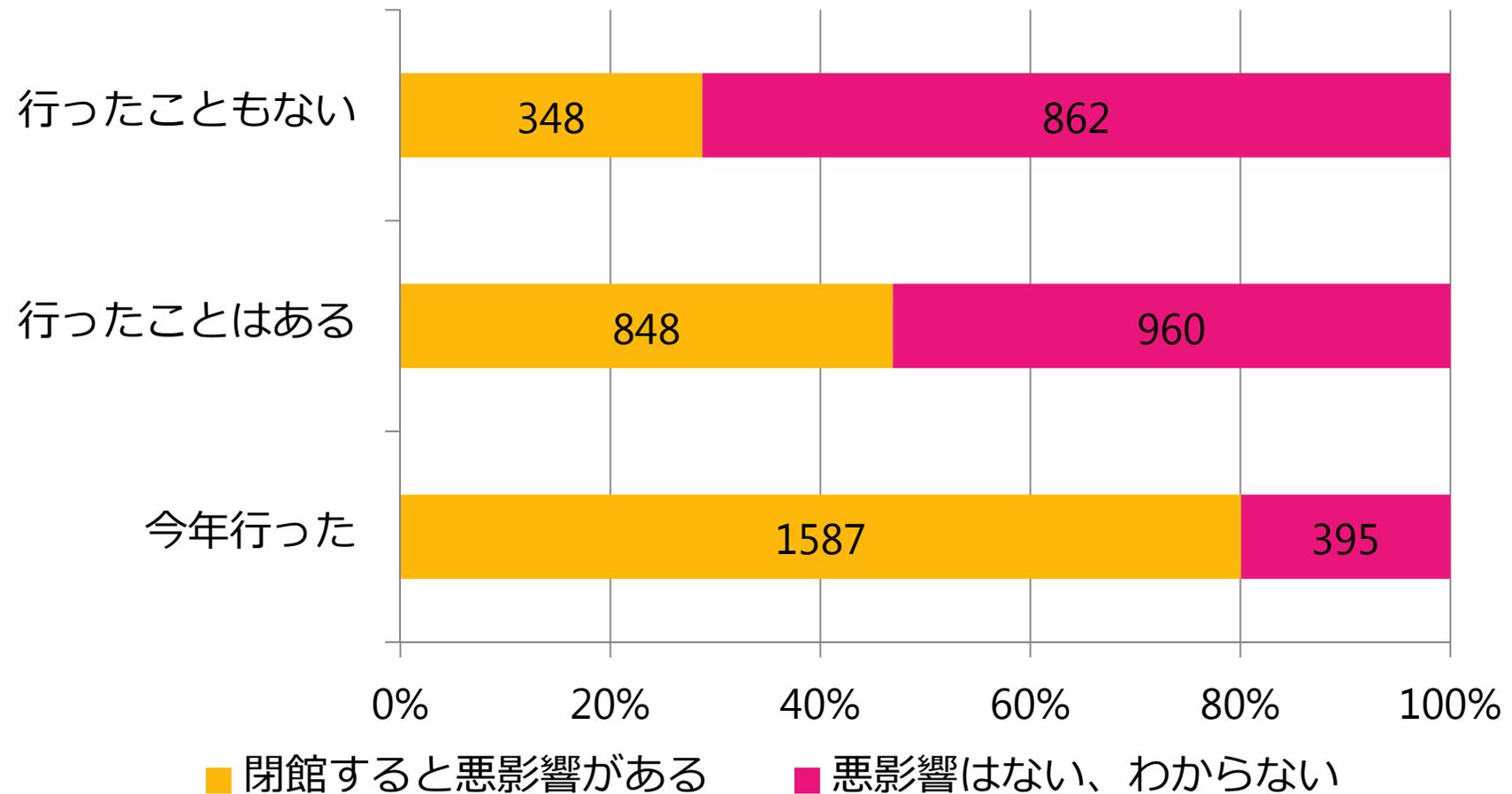
あなたの地域の図書館が

閉鎖されたら、

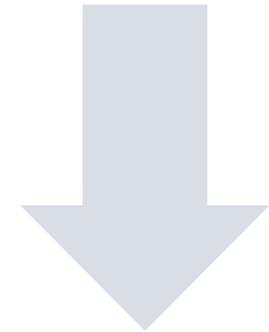
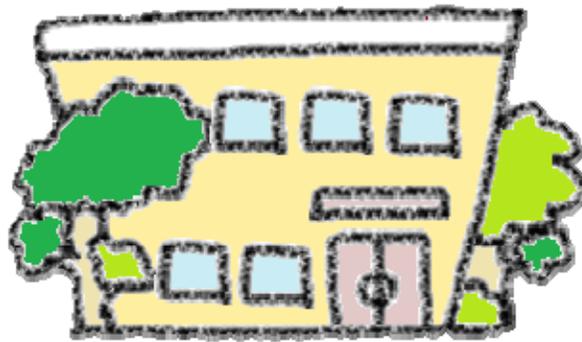
地域に好ましくない影響

があると思いますか？

図書館利用と図書館への認識



ライフステージと図書館



- 子どもが手を離れると使わなくなる
- 使わない⇒重要ではないと考え出す

その他の 活用例

マクローに

見る

社会階層と図書館利用

1

2015年 社会情報学会 (SSI) 学会大会
2015/09/13

野口康人¹, 岡部晋典², 浜島幸司², 片山ふみ³

¹筑波大学, ²同志社大学, ³聖徳大学

社会階層と図書館利用

1

2015年 社会情報学会 (SSI) 学会大会
2015/09/13

野口康人¹, 岡部晋典², 浜島幸司², 片山ふみ³

¹筑波大学, ²同志

図書館学徒未満

図書館学に関する本を読んだり調べごとをしたりしています。はてなダイアリーから移行しました。

2015-10
26

図書館は格差の固定や再生産に加担しているかもしれない問題

📖 図書館



新橋九段
@kudan9

🐦 フォローする

武雄市図書館にTSUTAYAの在庫が押しつけられる - Togetherまとめ togetter.com/li/858068 @togetter_jpさんから
文化資本の格差是正装置でもある図書館が金儲けの道具になる
のってなかなか皮肉の効いた事態だよね。

社会階層と図書館利用

- 以下と図書館利用の関係を分析
 - 経済資本の多寡（世帯年収）
 - 文化資本の多寡（学歴、コンサート観覧等の文化的活動）
 - 社会関係資本の多寡（地域との関わり）

社会階層と図書館利用

- いずれの資本も高いほど図書館を利用
- 教育年数、美術館等に行く頻度、地域活動への参加が特に図書館利用と関係
 - 世帯年収等とは独立に関係
- 図書館は格差を是正はしない・・・？

地域との関係

図書館利用と地域差について

同志社大学
図書館演習1-A班

天野夏南子 川端理恵子 誉田結花

背景

- 「市民の情報に対するニーズが高まっている」
↓
- 「大都市近郊の図書館の利用が増えている」
- 図書館は、自治体によって決まる。

参考：常世田良（2003）

「浦安図書館にできること-図書館アイデンティティ-」

テーマ：図書館と地域差

図書館利用に関する調査

例) 読書世論調査

- 有Q. 本をどこで入手しますか？
(→書店？図書館？…)
- ×無Q. 図書館を利用しますか？

図書館利用について
地域差に焦点をあてた
大規模な調査はあまり実施なし。

目的

(定義づけ)

「地域差 = **都市規模の差**」

居住地域の**都市規模**が、
図書館利用の有無と
関連するかどうかを明らかにする。

分析に用いる主な調査項目

背景

目的

結果

・Q21.過去1年間の図書館利用

1. 利用した

2. 1年以上前に利用

3. 利用なし



1.利用した



2.利用していない

・都市規模

1. 指定都市・特別区

2. 中核市

3. 特例市

4. その他の市区町村



1.大都市



2.中都市



3.その他



1.大都市



2.その他

- 図書館利用の有無 × 都市規模(3区分)

	利用した	利用していない	合計
大都市	664(37.3%)	1117(62.7%)	1781(100%)
中都市	468(41.6%)	656(58.4%)	1124(100%)
その他	850(40.6%)	1245(59.4%)	2095(100%)

カイ2乗値=6.772 p値=0.034

- 図書館利用の有無 × 都市規模(2区分)

	利用した	利用していない	合計
大都市	664(37.3%)	1117(62.7%)	1781(100%)
その他	1318(40.9%)	1901(59.1%)	3219(100%)

カイ2乗値=6.426 p値=0.011

関連性あり！

大都市のほうが
利用が少ない！

関連する要因は？

図書館利用と関連項目

- Q15.居住年数
- Q16.居住地域への愛着
- Q18. **図書館の場所の認識** ← 関連大
- Q22.利用する図書館は最寄りか

背景

目的

結果

都市規模 × 図書館認識

	知っている	知らない	合計
大都市	1510(84.8%)	271(15.2%)	3219(100%)
その他	2905(90.2%)	314(9.8%)	1781(100%)

カイ2乗値=33.106 p値=8.272e-9

関連性あり！

考察

- 図書館認識 × 図書館利用

→ 場所を知っている人の方が、図書館利用多い

- 都市規模 × 図書館認識

→ 大都市の人は、図書館の場所を知らない

- 都市規模 × 図書館利用

→ 大都市の人の方が、図書館利用は少ない

まとめ

大都市の人

→図書館の場所を知らない。

→あまり利用しない...??

都市規模



場所の認識



利用

- 図書館のPR施策が利用促進に有効？

参考文献

- 常世田良著. 『浦安図書館にできること-図書館アイデンティティ-』勁草書房. 2003年
- 『読書世論調査2015年度版』毎日新聞東京本社広告局. 2015年
- 国立国会図書館. 平成26年度 図書館及び図書館情報学に関する調査研究「図書館利用者の情報行動の傾向及び図書館に関する意識調査」

三ヶ月に
見る

「孤独な人」の 情報行動

同志社大学
図書館演習52-B班



Q6. 以下の1~11について、あなたはどのくらいの頻度で行っていますか？

1. 友人・知人・家族と会話する

「全くない」

「全くない」

161人

(3.2%)

この161人を
「孤独な人」と定義
情報行動を分析する



「孤独な人」の特性

- 年齢に有意な差はない
- 男性が有意に多い（91対70）
- 単身世帯が多い（23.6%⇔16.0%）
- 他の家族構成に差はなし

「孤独な人」の特性

- 年齢に有意な差はない
- 男性が有意に多い（91対70）
- 単身世帯が多い（23.6%⇔16.0%）
- 他の家族構成に差はなし
 - 妻・夫と同居している人が過半数

メディア利用行動

- テレビ、ラジオ、新聞、本、漫画・雑誌、映画、音楽etc...
- すべて有意に他の人よりしない傾向

文化的活動

- 博物館等、スポーツ、観劇、本屋...
- すべて有意に他の人よりしない傾向
- もちろん図書館利用も有意に少ない

ネット上の活動

- ウェブサイト閲覧、ブログ閲覧、SNS、ソーシャルゲームetc...
- すべて有意に他の人よりしない傾向

「全くない」

161人

(3.2%)

なにも

していいない…？

データからできること

- より詳細な／別視点からの分析
 - ミクロに見る：子の有無、孤独者
 - マクロに見る：文化資本、地域
- 他データとの掛け合わせ分析
- 背景：予備的な分析として使う

他データとの掛け合わせ

- **居住地データの存在の大きさ**
 - 地域が関連しうるあらゆる調査に使う
- **独立変数・従属変数の提供元として**
 - 図書館の利用・認識
 - メディアの利用行動

背景・予備的な分析として

- **日本人の情報行動を様々に切り取れる**
 - 子を持つ家庭、孤独な人、学歴、地域・・・
 - 独居老人 etc...
- **調査の導入部として**
 - 学位論文、図書の一部に
 - 学会発表、紀要論文に
 - レポート、ブログ記事、一般紙記事・・・

分析とかちょっと
無理なんだけど…

お任せ
ください

いつでもお声掛けを！

min2fly@slis.doshisha.ac.jp



参考URL等

- 佐藤翔. “子の有無と図書館利用・情報行動の関係”. 第14回情報メディア学会研究大会. 京都, 2015-06-27, 情報メディア学会. <http://www.slideshare.net/min2fly/ss-49939266>, (2015-10-29参照)
- 野口康人, 岡部晋典, 浜島幸司, 片山ふみ. “社会階層と図書館利用”. 2015年社会情報学会学会大会. 東京, 2015-09-11/13, 社会情報学会. <http://hdl.handle.net/2241/00126550>, (2015-10-29参照)
- aliliput. “図書館は格差の固定や再生産に加担しているかもしれない問題”. 図書館学と未満. 2015-10-26. <http://lovelibrary.hatenablog.com/entry/2015/10/26/145722>, (2015-10-29参照)